視　察　報　告　書

報告者　　ネットワークみらい・甲斐　高之　①

○福山市　　「不登校児童生徒支援対策」について　　４月２０日(月)

福山市では、学校に行きづらい子どもたちが安心できるよう、さまざまな方法でサポートしています。その中心が「福山市フリースクールかがやき」です。ここでは、不登校の小学生や中学生が自分のペースで学び、人と関わりながら過ごせるようになっています。先生たちは、一人ひとりに丁寧に寄り添い、子どもたちが安心できる居場所づくりを大切にしているとのことでした。

また、保護者ともよく話し合い、家庭や学校とも協力しながら支援している様子が報告されました。さらに、学校の中にある「きらりルーム」という小さなフリースクールや、子どもと保護者が気軽に相談できる「教育相談センター」との連携も大切にしていました。また、「子ども健全育成支援事業」のように、市としていろいろな機関が協力し合い、子どもたち一人ひとりに合わせたサポートができる体制を整えています。こうした連携によるチーム的な支援があるからこそ、困っている子どもたちが安心して相談でき、将来的に学校へ戻ることや社会につながることにも自然に挑戦できる流れが生まれていると感じました。ポイントは「連携」です。

最近では、オンラインやメタバースといった新しい技術を取り入れることで、子どもたちは家など自分が安心できる居場所からでも、学びや人とのつながりを感じることができるようになったのではないか感じさせてくれた実践でした。

今回の視察を通して、福山市では一人ひとりの子どもたちを、先生や専門家、そして地域や家庭、いろいろな立場の大人が力を合わせて支えていることを実感しました。困ったときには頼れる人や場所がたくさんあることの大切さを改めて感じ、大分市でも、こうした多方面の連携を意識しながら、不登校の子どもたちへのよりよい支援を考えていく上で、とても大切なヒントを得ることができました。

報告者　　ネットワークみらい・甲斐　高之　②

○福井市　　「観光施策」について　　４月２１日(火)

北陸新幹線が福井市まで延びたことで、多くの観光客を呼び込むための工夫が進められ、特に「ふくいプロモーション」として、地域の魅力を幅広く発信するキャンペーンを行っています。テレビや SNS 等の様々なメディアを通じて、福井の新しい情報やイベントを積極的に PR。福井駅東口には「福井市観光交流センター」が新たにできており、観光案内はもちろん、カフェや休憩スペース、レンタサイクルの貸し出し等のおもてなしが充実していました。さらに「ふくのね WEB」などのインターネットサービスで、観光スポットや交通の情報もすぐに手に入るようになっていました。

これらの取り組みにより、福井を訪れる人や泊まる人が大きく増えているそうです。特に関東地方など、これまでより遠くから来る人も増えている点が特徴的です。その一方で、ホテルや旅館などの宿泊施設が不足し、県や市が新しい施設を増やすため民間と協力する動きも始まっています。また、在来線の乗り換えが分かりにくい、便利さが下がったという声や市内の移動手段の充実が課題となっていました。福井市では観光客の動向をデータで分析し、それを活かした観光地づくりやイベントづくりに取り組んでいました。補助金や交付金を使いながら観光スポットや施設の整備を進めています。

市や観光協会、地元の事業者が連携して多様な観光の楽しみを提案したり、どんな人でも安心して来られる受け入れ体制を構築したりしていくことが大切だと学びました。今回の視察を通じて、観光を元気にするためには地域全体で協力し、みんなで知恵を出し合うことがとても大切だと実感しました。この視察を私たちのまちづくりにも活かしていきたいと思います。